

付録 10

神による複数形の使用について

三位一体の教理が普及している英語圏では、コーランの中で神が複数形（私たち）を用いていることに興味を抱く人々がいる。しかし、コーランが一切の妥協なく伝える圧倒的なメッセージは、「神は唯一である」ということだ（2:133, 163; 4:171; 5:73; 6:19; 9:31; 12:39; 13:16; 14:48, 52; 16:22, 51; 18:110; 21:108; 22:34; 37:4; 38:65; 39:4; 40:16; 41:6; 112:1）。

全能者によって一人称複数形が使われる場合、それは例外なく、天使などの他の存在の関与を示している。例えば、このコーランの啓示には、天使ガブリエルと預言者ムハンマドの関与があった。それゆえ、15章9節では複数形が使われている。「**われら**はこの経典を降ろし、そして**われら**がそれを守護する。」ここでの複数形は、単にガブリエルとムハンマドがコーランを届けるプロセスに参加したという事実を反映しているに過ぎない。

別の例として、アダムとイエスにいのちの息吹をふきこんだ件がある。アダムの創造は天国で行われ、神が直接彼に命の息を吹き込まれました。そのため、一貫して一人称単数形が使われています。「**わたし**は自らの霊から彼（アダム）の中に吹き込んだ」（15:29, 38:72）。一方、イエスの創造は地上で行われ、ガブリエルが神の「言葉」をマリアに運びました。そのため、イエスの創造に言及する際には、一貫して複数形が使われている（21:91, 66:12）。

神が天使の仲介なしにモーセに直接語りかけたとき、神は排他的に単数形を使っていることが分かる。「**わたし**こそが神である。**わたし**の他に神はない。汝は**わたし**のみを崇拜し、**わたし**を記念するために定時礼拝（サラート）を捧げよ。」（20:12-14）。

神への崇拜について言及されるときは、常に単数形が使われている（51:56）。